

全国の火山の監視及び噴火警戒レベルについて

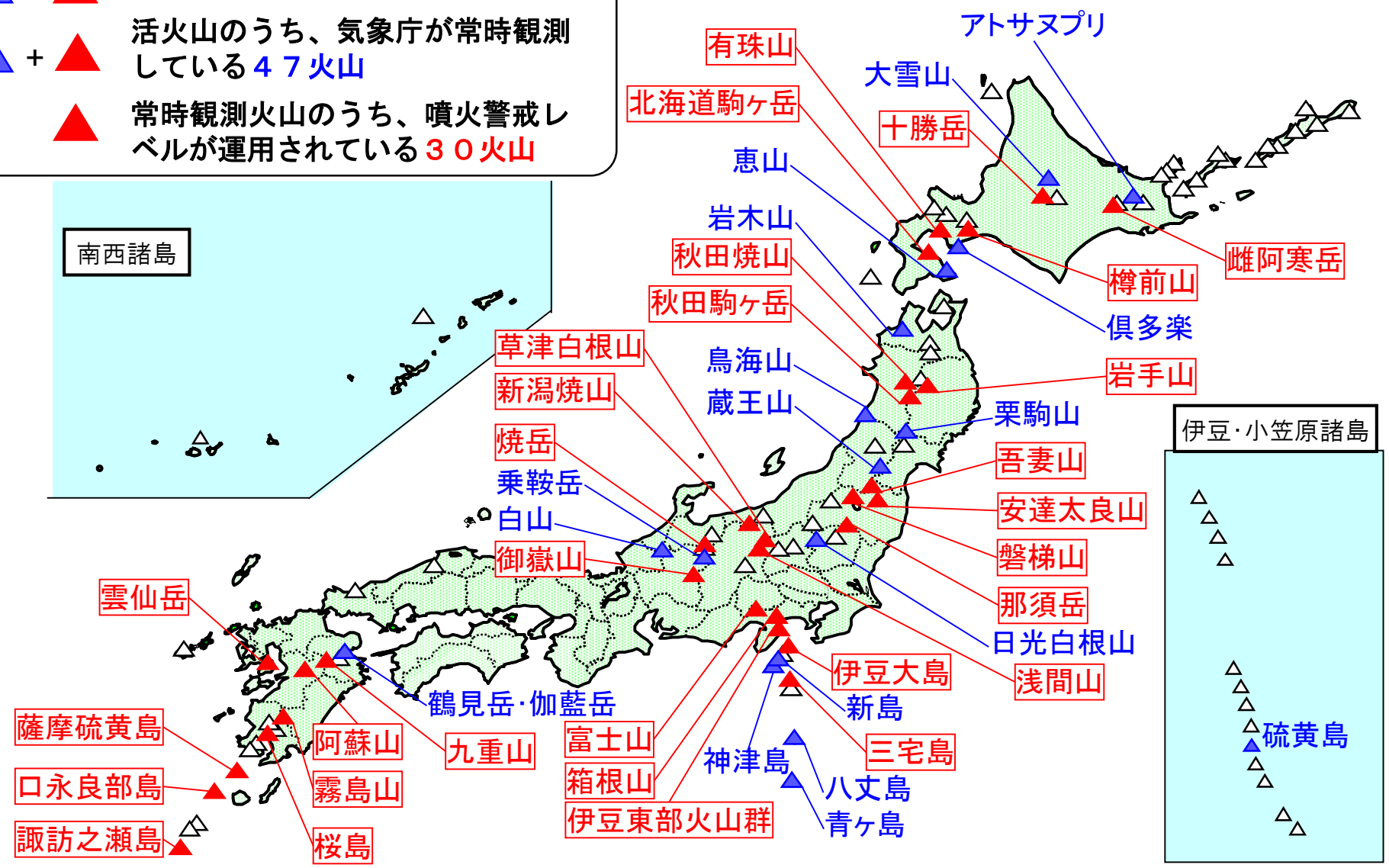
- 気象庁では、全国110の活火山のうち、火山噴火予知連絡会によって選定された47火山*を常時観測火山として24時間監視
- このうち、30火山において、噴火警戒レベルを運用。

△ + ▲ + ▲ 活火山 (110火山)

▲ + ▲ 活火山のうち、気象庁が常時観測している47火山

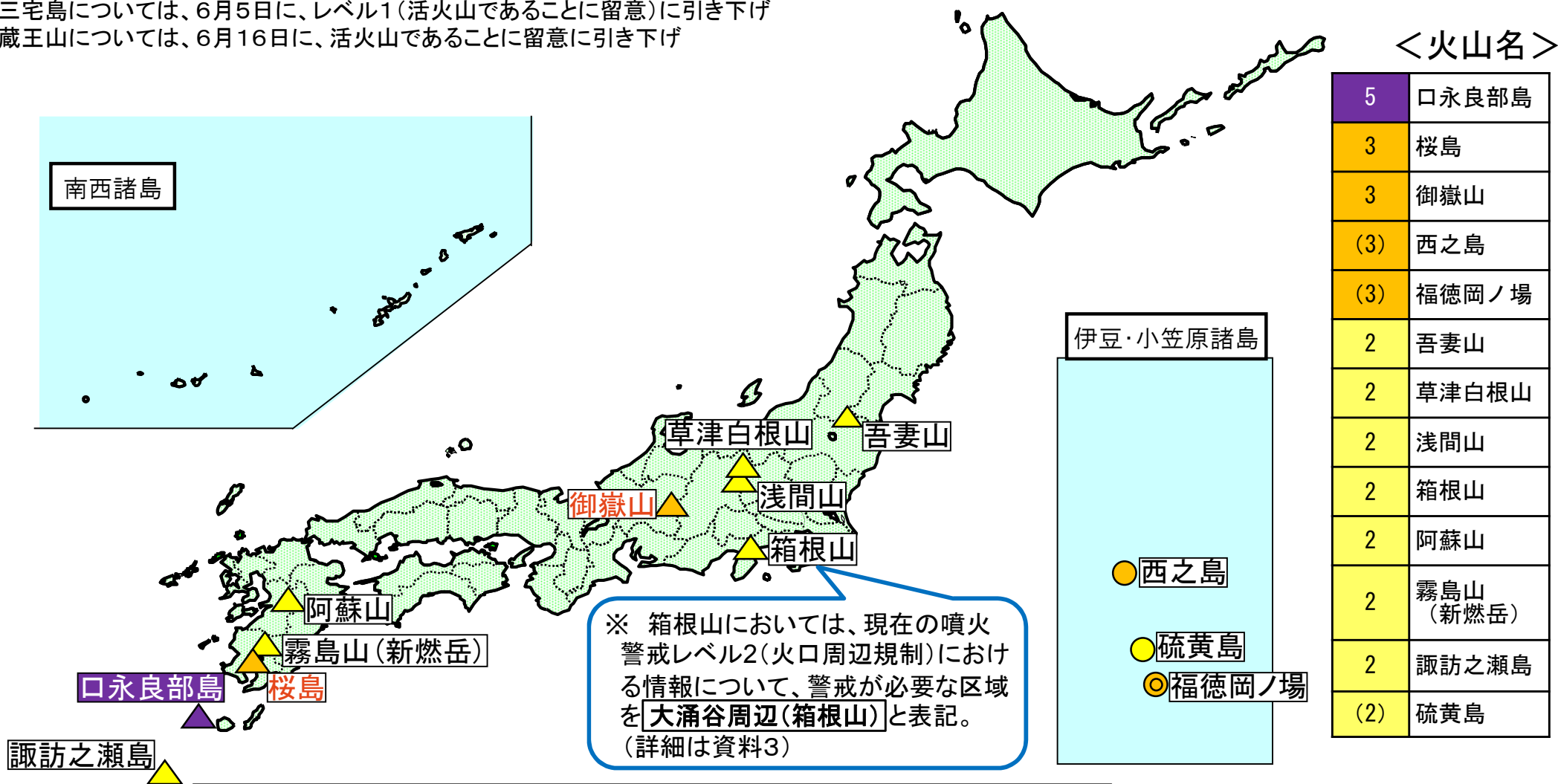
▲ 常時観測火山のうち、噴火警戒レベルが運用されている30火山

※今後、新たに3火山(八甲田山、十和田、弥陀ヶ原(立山))を追加予定



○ 現在、13※の火山で噴火警報を発表

※三宅島については、6月5日に、レベル1(活火山であることに留意)に引き下げ
 ※蔵王山については、6月16日に、活火山であることに留意に引き下げ



<火山名>

5	口永良部島
3	桜島
3	御嶽山
(3)	西之島
(3)	福德岡ノ場
2	吾妻山
2	草津白根山
2	浅間山
2	箱根山
2	阿蘇山
2	霧島山(新燃岳)
2	諏訪之瀬島
(2)	硫黄島

【凡例】

噴火警戒レベル対象火山

- ▲ レベル5(避難)
- ▲ レベル4(避難準備)
- ▲ レベル3(入山規制)
- ▲ レベル2(火口周辺規制)
- △ レベル1(活火山であることに留意)

噴火警戒レベル対象外火山

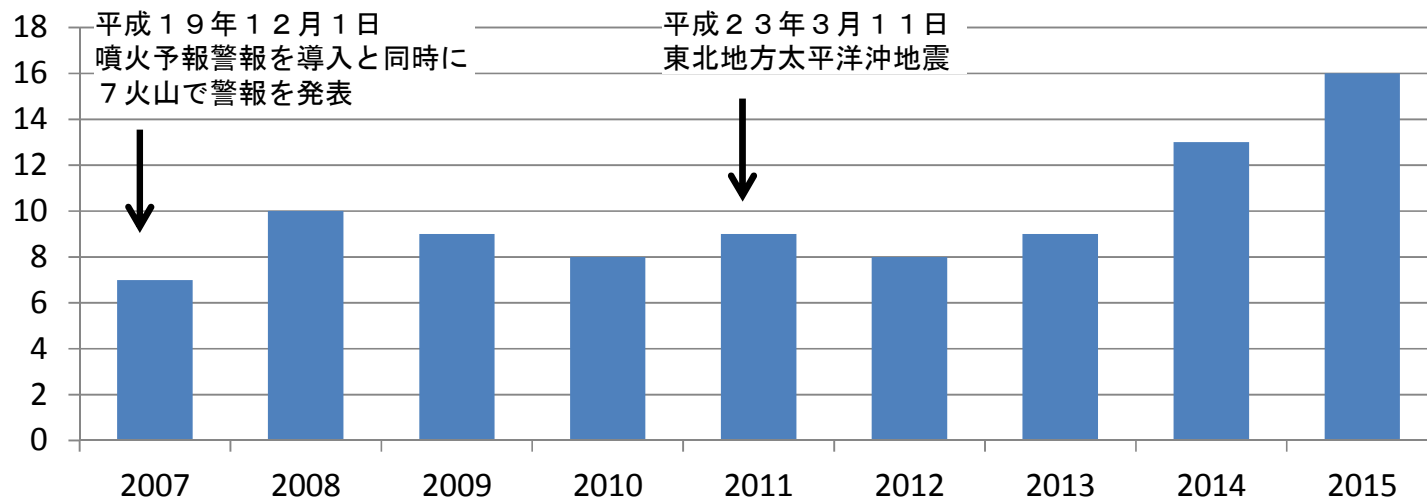
- 居住地域嚴重警戒
- 入山危険
- 火口周辺危険
- 活火山であることに留意

海底火山

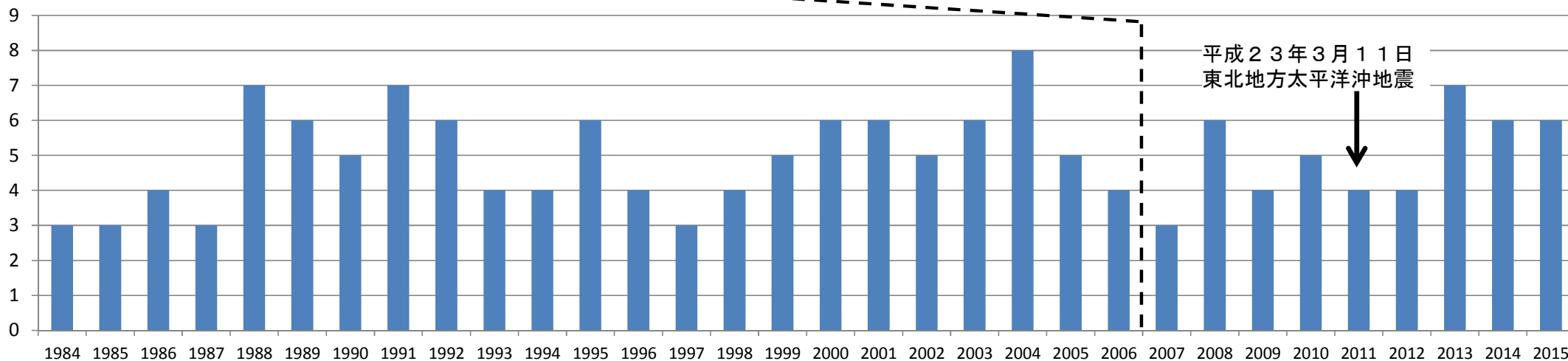
- ◎ 周辺海域警戒
- ◎ 活火山であることに留意

- ここ数年、噴火警報を公表している火山数が増加していることは事実であるが、「日本全体の火山活動が活発化している」とはいえない。
 - ・ 2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の前後で明確な傾向があるとは判断できない(図1)。
 - ・ また、1984年以降の30年間の噴火した火山の数を見ても、明確な傾向があるとは判断できない(図2)。











● 図1 噴火警報を公表した火山数



● 図2 噴火が発生した火山数



(参考)噴火警戒レベル表

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード	説明		
				火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応
特別警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域 及び それより 火口側	 レベル5 避難 	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法を判断)。	
			 レベル4 避難準備 	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から 居住地域 近くまで	 レベル3 入山規制 	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の推移に注意。入山規制)。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)。
		火口周辺	 レベル2 火口周辺規制 	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。	火口周辺への立入規制等(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
予報	噴火予報	火口内等	 レベル1 活火山であることに留意 	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。		通常の生活。

※火山によって、レベル毎の警戒が必要な範囲は異なる